



認定特定非営利活動法人(認定NPO)

# インド福祉村協会

会報

2005.4.1

Vol.10

## India Welfare Village Society News

ホームページ <http://www1.ocn.ne.jp/~gassho/> (ボランティア 募集中)  
特定寄付金に税制上の優遇措置が認可

インド福祉村病院(アーナンダ病院)は2004年10月までの6年間に115,000名の患者が来院し、貧農村の人々の病気の治療に貢献しております。

7年目には日本大使館の草の根支援にて医療機器の充実が予定されております。

認定NPO法人として今後、特定寄付者には免税申請が可能となり、益々充実した医療活動と公衆衛生活動の発展が期待されます。

日本の皆様のご支援をお願いいたします。



(アーナンダ病院正面)



(診察を待つインドの人々)



(理事長 山本孝之)

この度、インド福祉村協会は、国税庁長官より、「認定NPO法人」として認めていただきました。東海地区では初めての認定でして、その光栄に感謝しております。

これからは皆様のご寄付はすべて、税額控除できることとなります。これもひとえに皆様方のご支援の賜で、心から深く深く感謝申し上げます。

インドの貧しい部落の人々の健康を守るとともに、インドの子供達の教育にも貢献してゆきます。

今後よろしくご協力のほどを。

## インド福祉村病院(現地名 アーナンダ病院) 開院7年目...発展の年

クシナガラ(北インド・UP州)

みんなの力で

みんなの幸せを

理事長 山本孝之



# 日本NGO支援決定

常務理事 柴田 昌雄

【日本NGO支援無償資金の支援費が決定】

外務省の民間支援室のご尽力によりこの度現地アーナンダ病院の医療機器整備費を頂くことが出来ました。

その医療機器は

- (1) 血液生化学自動分析装置
- (2) X線フィルム自動現像機
- (3) 小型発電機

これらの機器の導入により医療面での質的向上が期待されます。ご支援本当に有難うございました。



(結核患者の生活指導)

# 6周年のあゆみ

医師 P.N.グプタ

日本の皆様のご支援とインド福祉村協会のご尽力により開院7年目を迎えることができ、たいへん感謝しております。04年(平成16年)度は、22,500名と過去最高の来院患者となりました。

インド医療のなかに、日本人の心を取り入れた医療を目指して、親切、丁寧な治療に励んでおります。7年目は新しい医療機器の設置で充実した医療と女性への生活改善と、保健衛生教育に着手して、感染症の減少と生活向上に努力いたします。日本の皆様ぜひアーナンダ病院へお越し下さい。

【風土病的疾病】

- 1) マラリア
- 2) フィラリア症
- 3) ハンセン病
- 4) カラアザール日
- 5) 本脳炎
- 6) アメーバ赤痢
- 7) 甲状腺腫
- 8) 狂犬病
- 9) 蛇毒
- 10) 象皮病

【来院患者疾患名(上位)】

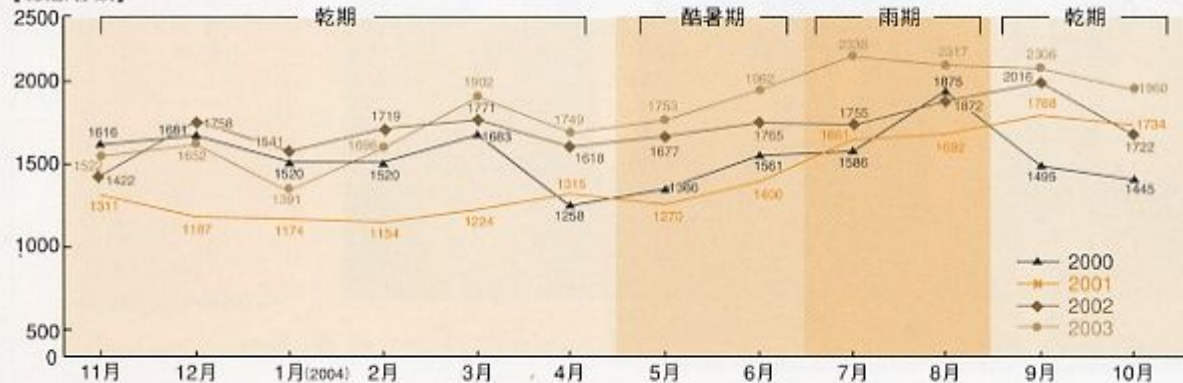
- 1位 気管支喘息
- 2位 胃潰瘍
- 3位 貧血
- 4位 トリコモナス症
- 5位 気管支炎
- 6位 関節リュウマチ
- 7位 ウイルス感染症
- 8位 筋肉痛
- 9位 高血圧
- 10位 肺結核

【患者数】

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	累計
総患者	15,310名	21,140名	18,606名	16,910名	20,636名	22,578名	115,180名
新来患者	6,756名	7,946名	6,247名	5,593名	7,547名	8,191名	42,280名
再来患者	8,554名	13,194名	12,359名	11,317名	13,089名	14,387名	72,900名

男性 36% 女性 64% 小児 10%

【総患者数】



【南アジア】



福祉村病院の建設地

【インド クシナガラ周辺の主要都市】



(グプタ医師の診察)

現地住所

ANANDA HOSPITAL TEL : 91-5564-272428 / 91-5564-272429  
住所 : VILLAGE SIRSIA DIST PADORONA 274403.UP.INDIA



# 認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

事務局長 武田 和敏

平成17年1月に国税庁長官より「認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)」として認定されました。

全国でインド福祉村協会が29番目で東海地区では初の認定NPO団体となりました。これにより寄付者にかけられていた税金が減免されることになりました。(左図参照)

今後ますます責任は重大となりますが、インドにおける地域医療、生活改善、公衆衛生活動の更なる充実を目指したいと思います。



(部落の家屋と子供達)



(キンタブ村の牛)

## アーナンダ病院訪問

芝山堂子 仲井美由紀(愛知医大看護学部)

今回は現地の住民の衛生習慣と生活状況の実態調査と大学院生の実習を兼ねた訪問でしたが、いろいろな出会いと発見がありました。まずはアーナンダ病院の外来診療を見学し、そこに訪れる住民の方々の健康問題や生活に接することができました。家庭訪問をさせていただいたお宅では、それぞれ皆さんが農業を中心とした生活の中でいきいきと暮らしてみえたことが印象的でした。とくに、突然の異文化からの訪問者にさらさらと輝いた、興味津々の眼差しととびきりの明るい笑顔をみせてくれた子ども達の姿に、こちらもわくわく楽しい気分が湧きました。5日間のほんの短い滞在でしたが、地域住民の皆さんへ健康支援のためにできる何かを少しつかむことができましたように思います。すでに次の訪問をとても楽しみにしている私達です。

【清潔習慣】  
手足が埃や垢で汚れている子どもが多く、皮膚症状を呈している子どもが多かった。幼い子どもでは、皮膚疾患が問題になると考えられる。シャワーや風呂、洗面台といった設備はなく、ハンドポンプの水で体を洗ったり、歯磨きをしていた。  
草履をはいている子どももいたが、裸足で歩いている子どもが多かった。手を洗った後でサリールやカムチャ(襟巻き)で拭くことが多い。着用していた衣類は、あまり洗濯がされていないように見えなかった。

【調理や食器の洗浄について】

地面の上で直に調理をしており、調理したものをそのまま地面の上において食べている。バケツに汲んだ水で牛糞を燃やした灰を洗浄剤に、薬のたわしで洗っている。



(食器類を洗っている様子)

台所には流しの設備がないので、屋外の排水溝でバケツにためた水で洗いものをして洗っている。排水溝の近くで、地面に食器を置いて洗っている。汚水の跳ね水が洗った食器についてしまう可能性がある。

【食生活と健康】

診察時に寄生虫の感染を、繰り返ししている子どもや若者が多くみかけた。6ヶ月ほどを経過した後また診察を受けに来るらしい。生野菜をかなりの人が食べているが、そのことに起因しているかもしれない。

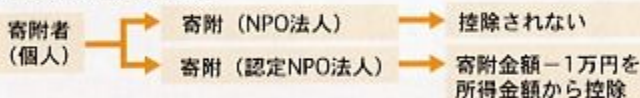
## 1. 認定NPO法人とは

福祉、環境、まちづくりなどの特定非営利活動を行うNPO法人のうち、一定の要件を満たすものとして国税庁長官の認定を受けたものに対して支出した寄附について、次のような税制上の優遇措置が講じられています。(インド福祉村協会の認定期間は2005.2.1~2007.1.31までです) 高、領収書の再発行は出来ませんので大切に保管して下さい。

## 2. 寄附者に対する税の優遇措置 (NPO法人と認定NPO法人の違い)

### ■ 個人が寄附をする場合

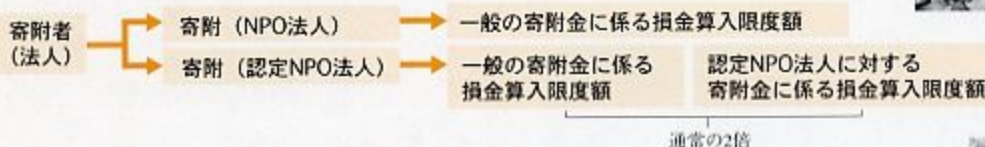
特定寄附金の額の合計額から1万円を控除した金額をその年分の総所得金額等から控除できます。



(算定) 特定寄附金-1万円=寄附金控除額

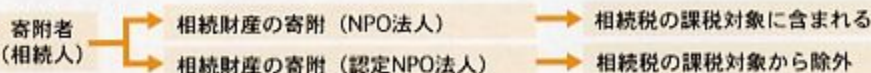
### ■ 法人が寄附をする場合

一般の寄附金に係る損金算入限度額とは別に、同額の損金算入限度額が設けられていますので、その損金算入限度額の範囲内で損金算入が認められます。



### ■ 相続又は遺贈により財産を取得した方が相続財産を寄附する場合

相続税の算定において、認定NPO法人に対し寄附した相続税は、相続税の課税対象から除かれます。



## 村の人々の生活習慣と衛生状況について

### 【家屋の構造と生活習慣】

家のすぐそばで牛やヤギが飼育されている。牛は屋内で飼われていることもある。狭い家屋に家族が何人も一緒に住んでいる。結核患者がいた場合は感染伝播のリスクがとても高くなることを考えられる。

レンガ造りの家でも窓がないため換気が悪く、このことが呼吸器疾患が多いことに関連していると考えられる。薬作りの家でも通気が悪く、かまどが屋内に設置されて



# インド病院の募金活動

塚本 愛海 浜松市立三方原小学校

「今年もインド病院の募金活動しようよ」  
わたしたち運営委員が原つ子フェスティバルの話し合いをしていた時、八田君が言いました。インド病院の募金活動は十年以上も続いています。運営委員や六年生が中心になって実行してきました。今年もまたインドの貧しい人々のために協力しようと考えました。五、六年生みんなが賛成しました。これで募金活動を行うことは決定しました。

そして原つ子フェスティバル当日。予想以上の人が来ました。募金にもたくさんの方が協力してくれました。中には高いお金を「困っている人のために役立ててね」と、箱の中に入れてくれた人もいました。募金してくれる人が少なくなると、他の校舎に行つて呼びかけたり、放送で知らせたりしました。募金をしてくれた人には、わたしたちが大切に育てたパンジーの苗をお礼に渡しました。募金箱にお金を入れ、パンジーを受け取り、笑顔で帰っていく人達を見てみると、やつてよかったなあという気持ちになり、「ありがとうございます」とその言葉が自然に出てきました。本当に心からそう思いました。

インドでは、お金がなくて病院に行けない人がいてかわいそうだと思います。同じ人間として、助けてあげられることを、とてもうれしく思いました。



## IWVSのおゆみ

●2002年	●2003年	●2004年・2005年
5月 IWVS、総会、理事会。会報7号発行	5月 IWVS、総会、理事会。会報8号発行	04 1月 愛知NGOフェスタ展示会参加
6月 ボランティア貯金支援4年目開始 結核、喘息、トリコモナス、無料診療開始 ECG、X-P、初診料、料金再検討	6月 ボランティア貯金支援5年目開始 Dr Gupta ラクノク 医学講習 8週間	5月 IWVS、総会、理事会。会報9号発行 ボランティア貯金支援終了 収益事業開始、インド紅茶販売開始
7月 外務省草の根支援協力申請	8月 自動車 マルチスズキ 購入	11月 アーナンダ病院開院6年完了、7年目開始 福祉村文化祭 パザール参加
9月 インド大列車事故	11月 アーナンダ病院開院5年完了、6年目開始	12月 スマトラ 沖地震発生、インド津波被害
8月 カレッジ オブ 豊橋 参加	12月 ボランティア貯金支援状況。事務局、現地調査	05 1月 認定特定非営利活動法人(認定NPO)認可
11月 アーナンダ病院開院4年完了、5年目開始 福祉村文化祭、愛学大文化祭参加		2月 JICA草の根協力支援型事業申請 外務省NGO支援無償資金協力、認可

認定特定非営利活動法人  
(認定NPO)

# インド福祉村協会 (IWVS)

インド福祉村協会は、民族、宗教を超えて日本とインドの両国民が共通の価値観を共有し、互いに学び合うことを理念として、インド国の医療に恵まれない人々に対して、プライマリ・ヘルスケアを中心とする診療活動と保健衛生活動及び不就学児童らに対する教育活動を行うことによって、インド国の医療の充実及び幼児教育の充実を図り、もって両国の友好に寄与することを目的としています。診療活動としてクシナガラにてインド福祉村病院(アーナンダ病院)を開設、運営を行っています。

ホームページ <http://www1.ocn.ne.jp/~gassho/>



## 入会のお願い

**正会員:** 年会費 5,000円 総会の議決権があります。協会の会報を毎回お届けします。  
プロジェクトの進み具合、現地の情報を逐次お知らせします。現地宿泊の便宜を図ります。

**特別会員:** 年会費 100,000円(一口以上) 総会の議決権はありませんが、代表一名を正会員として登録します。その他正会員と同様。

**賛助会員:** 年会費 1,000円(一口以上) 総会の議決権はありません。協会の会報をお届けします。

### 【会費・寄附の支払い方法】

**郵便振替** 郵便振替用紙を利用し、最寄りの郵便局より手続きを行う。  
ご一報いただければ用紙をお送り致します。また、入金が確認  
されましたら領収書を送らせていただきます。  
**郵便振込** (口座番号) 00830-2-65008 (加入者名) インド福祉村協会

## 募金のお願い!

少しでもあなたの善意を  
分けて下さい。

インド福祉村協会 (INDIA WELFARE VILLAGE SOCIETY)

理事長/山本孝之(さわらび会理事長)

常務理事/柴田昌雄(愛知学院大前教授) 理事/高木元昊(慈専寺前住職)

事務局長/武田和敏

■発行者 インド福祉村協会 (IWVS)  
■発行人 大竹祐一 ■編集協力 文創社  
■インド福祉村協会事務局  
〒441-8124 愛知県豊橋市野依町山中19-12  
TEL:0532-48-1138 FAX:0532-48-2365

ほか